

# 協会の開催案内

## マンスリーセミナー

381	2/17 (火)	CO <sub>2</sub> レーザによるガラス板材 の曲線切断と面取り	ファインテック株式会社 取締役 羽田センター長 中川 考一 氏
(内容) CO <sub>2</sub> レーザによるガラス板材の切断は、切断面にマイクロクラックを発生させず、ガラス自体の強度を低下させることのない、またクリーン環境を汚染することのない切断方法です。ロシアのコンドラチェンコ氏によってその原理が開発されて以来、その将来性に大きな期待がかかっていました。我々FOXCONN Groupはこの技術の活用開発に取り組み、曲線切断と面取り加工技術の開発を行いました。今回、実際の生産に適用できる段階に至ったと判断いたしましたので、その内容を紹介させていただきます。			
382	3/17 (火)	ホログラフィ技術による光情報処理 —大規模データ照合に向けた クラウド型光相関システム—	電気通信大学 先端領域教育研究センター  特任教授 渡邊 恵理子 氏
(内容) 近年のクラウド型システムの普及は著しく、メールやデータ 保存だけでなく、クラウド上に保存した音楽データに対し、データベースと照合された音楽データに関して音質改善を自動的に行うなど、様々なサービスが提供されている。我々のグループでは膨大な動画データに対して高速照合を行うことを目的として、ホログラフィック光メモリを用いた光相関システムの研究開発を行ってきている。さらに通常のデジタルコンピュータと光相関システムを組み合わせることでウェブインターフェイスから光相関システムを利用可能なクラウド型動画検索システム(著作権管理システム)の研究開発を継続している。本講演では、光相関システムの現状と課題、およびインターネット上の著作権管理システムへの応用について、経産省における知的財産侵害対策事業での報告事項を交えながら紹介する。			
383	4/21 (火)	高出力レーザと加工プロセス技術の最新動向 ～スキャナー、DOE(回折光学素子)による 入熱コントロール	前田工業株式会社  取締役 レーザー事業部長 三瓶 和久 氏
(内容) 高出力のレーザ加工の分野ではファイバーレーザの適用が主流になりつつある。ファイバーレーザは 100KW 機が国内に設置され、国産のファイバーレーザもキロワットクラスの製品がデビューし高出力化が進んでいる。また、加工用の半導体レーザも 20KW までの高出力化が進んでいる。 自動車を中心に、車両、橋梁、船舶にいたる様々な業界でレーザ加工の適用が進んでいる。製品を革新するための道具としてレーザ加工が活用されている。レーザ加工プロセスの進化としてスキャナーを使った光走査による溶接が量産ラインに導入されるケースが増えており、トヨタ自動車のスクリーウェルディングに見られるように、溶融池を制御して溶接品質を向上する技術としても採用されるようになってきている。レーザ・アークハイブリッド溶接も大型の構造物への適用が拡大している。ファイバーを中心に、レーザの構造と特徴から始めて、最新の加工技術、そして現在研究開発を進めている回折光学素子(DOE)による光整形技術を適用した CFRP と金属のレーザ溶着技術についても紹介する。			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧ください。

会 場：光産業技術振興協会（有楽町線 江戸川橋駅 3 番出口）  
東京都文京区関口 1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル 7 階  
時 間：午後 3 時 30 分～5 時 30 分  
定 員：60 名（申込先着順）  
<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

参 加 料：協会賛助会員：1,500 円（1 回につき・消費税込）  
一般参加：3,000 円（1 回につき・消費税込）  
申 込 先：光産業技術振興協会 開発部 潮田（うしおだ）  
TEL：(03)5225-6431 FAX：(03)5225-6435  
E-mail：mly@oitda.or.jp